

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 2020年9月1日

(2)調査対象期間 2020年4月～6月期の実績および2020年7月～9月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業+食品業部会	30社	17社	56.7%
水産業部会	30社	17社	56.7%
機械工業部会	30社	15社	50.0%
建設業部会	30社	21社	70.0%
観光・サービス業+諸業部会	30社	21社	70.0%
合計	150社	91件	60.7%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

―業況は僅かに回復するも依然不況感が続く。次期は大きく回復の見込み―

1. 全体の動き（業況）

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期（2020（令和2）年4月～6月）の全業種平均DI値**（「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差）は、**前年同期比では▲39.5**と前年同期の▲4.9より**34.6ポイントの悪化**となりました。（※前回調査時▲43.7）

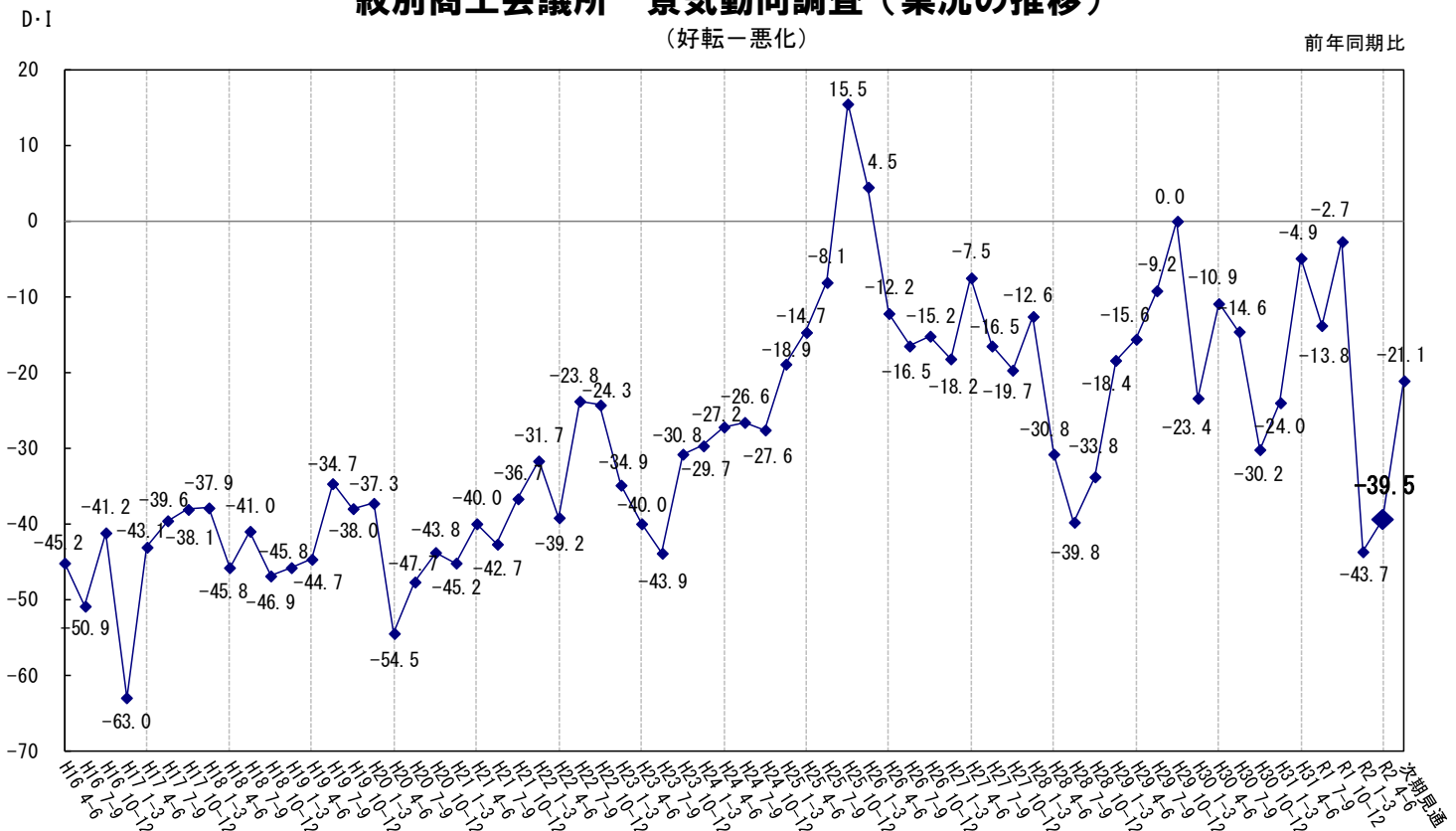
部会別に前年同期（2019 第1 四半期）と比較すると、商業・食品業 [前年 DI 値▲20.0→**今期▲47.0**]、水産業 [前年 DI 値 14.3→**今期▲5.9**]、機械工業 [前年 DI 値▲18.2→**今期▲20.0**]、建設業 [前年 DI 値▲18.8→**今期▲47.6**]、観光・サービス業・諸業 [前年 DI 値 5.9→**今期▲66.6**] となりました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、前年同期では大幅な悪化の値となりましたが、北海道独自の「緊急事態宣言」発令で外出が制限された前回調査時（2020 年 1～3 月期▲43.7 ポイント）と比較すると、4.8 ポイントの回復となりました。しかしながら、例年であれば新年度を迎えて行われる各種行事や会合等も中止や人数制限による実施、各種会議も書面会議や web を活用したオンライン会議に切り替わり、人の接触を極力避ける対策がとられています。

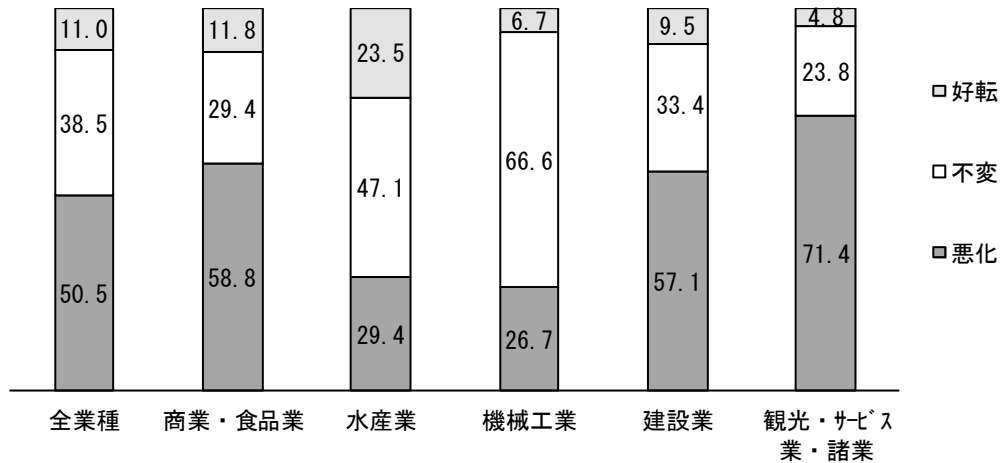
また、日頃からマスクの着用や手指消毒をはじめとした感染予防対策を実践する「新北海道スタイル」の導入等、従来の生活スタイルが大きく変わり、全業種で対応に追われています。

来期（2020 年 7 月～9 月）については、今期と比べて**業況判断 DI が▲21.1 と 18.4 ポイント回復する見込み**となっています。全業種で今期よりも好転する見込みとなっており、紋別市の大型支援策の一つである「紋別市プレミアム付商品券」による経済効果も期待されます。新規感染者が連日報告され、未だ終息する気配の見えないコロナ禍で、現在も国や北海道、紋別市の様々な支援策についての相談を受けています。

紋別商工会議所 景気動向調査（業況の推移）



今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、全業種通して「従業員の確保難」を訴えております。また、「需要の停滞」「熟練技術者の確保難」を訴える声が多くなっています。

■部会別の動向

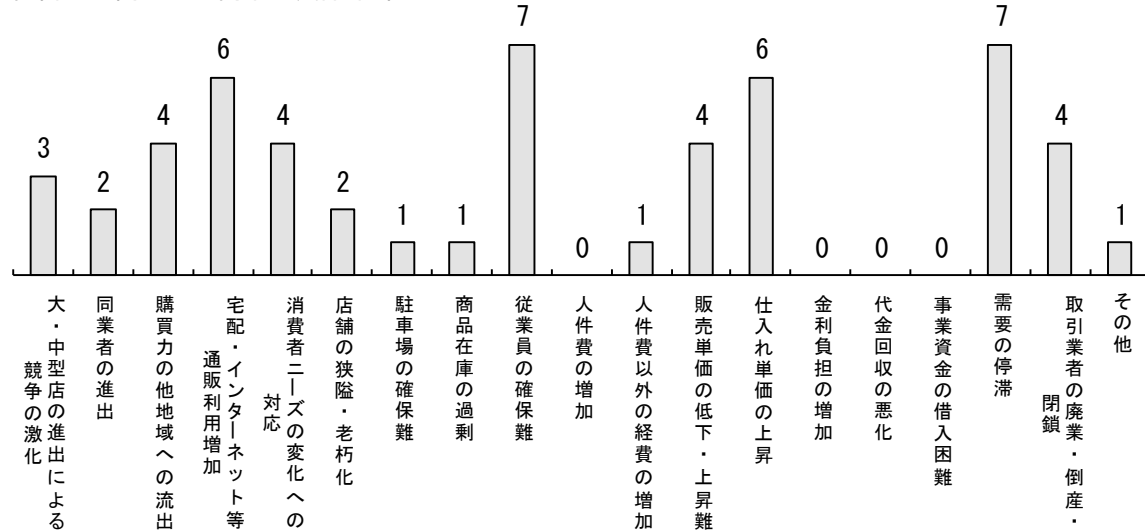
【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲47.0（前年DI値▲20.0、来期見通し▲11.8）〕

業況DI値（前年同期比）は、27ポイントの大幅な悪化となりました。前回調査時（2020年1～3月DI値▲41.2）と比較しても、更なる悪化となりました。外出を控えた「巣ごもり生活」による生鮮食品や衛生製品の需要の増加による回答も見られるものの、人との接触を控える事による観光サービス業の客数減から酒類、土産店への影響は大きく、また、入学式等の人数制限や休校措置により衣類やスポーツ関連も大きな悪化の値となりました。次期は小売店を中心に回復するとの回答があり、休業要請の解除後の経済活動が活発化する事に期待されています。経営上の問題点は、「従業員の確保難」「需要の停滞」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・新型コロナによる大幅な売上減。（食料品等小売）
- ・携わる人々の高齢化、他市への人口流出（仕事を求めて）など、ますます従業員の確保が困難になってくる。（食料品製造）
- ・紋別市の例でも分かる通り、行政、特に国の財政出動が困難、世界恐慌から脱する肝です。3次、4次補正を強く希望します。（食料品等小売）
- ・イベント・行事の中止で売上減少（食料品等小売）

経営上の問題点（商業・食品業部会）

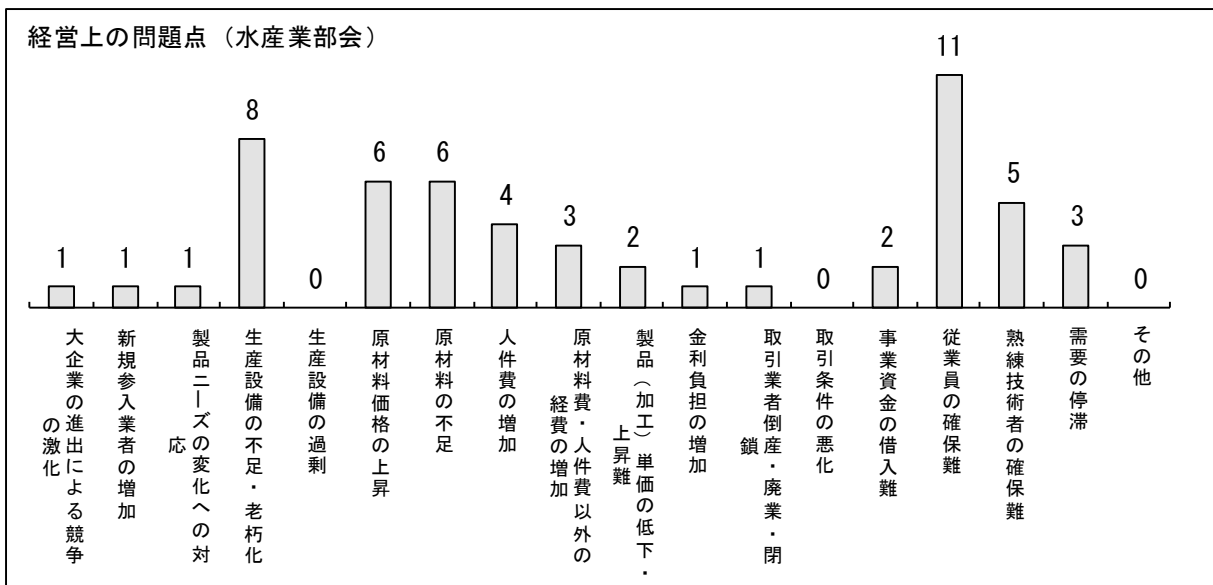


【水産業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲5.9（前年 DI 値 14.3、来期見通し 0.0）〕

業況判断 DI 値（前年同期比）は、20.2 ポイントの悪化となりました。春の味覚である毛がに漁も漁獲量は前年よりも増加し、魚価も 3 割程下がったことから、加工業者にとっては好事となりました。また、資源が回復している帆立も順調な水揚げとなっていますが、新型コロナウイルスの影響により輸出入制限があり、在庫が過大になっているとの回答が寄せられています。この他、多くの加工場で外国人実習生の受入をしていますが、未だ予定している人員が入国できていない状況にあり、労働力不足の厳しい状況を訴える声が寄せられています。来期の見通しは、今期と比較すると 5.9 ポイント好転する予測となっています。経営上の問題点としては「従業員の確保難」が突出し、「生産設備の不足・老朽化」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・仕事はあるのに人が不足している。コロナにより入国できない実習生がたくさんおり、とても困っている。（水産加工）



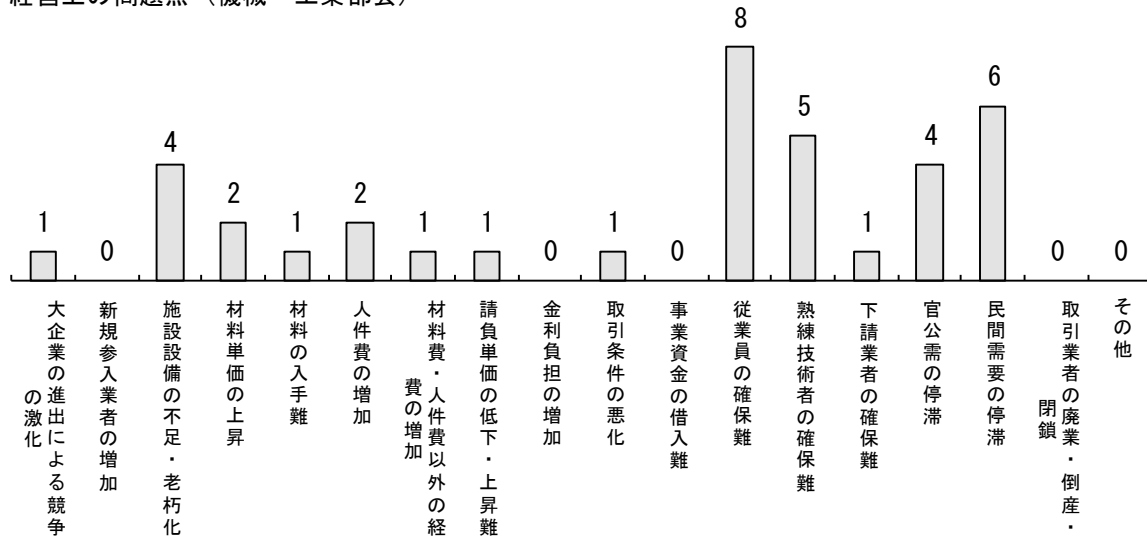
【機械・工業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲20.0（前年 DI 値▲18.2、来期見通し▲28.6）〕

業況判断 DI 値（前年同期比）は、1.8 ポイント僅かに悪化となりました。前回の調査時には▲53.8 と新型コロナウイルスの影響により業況が大幅に悪化していましたが、やや減少幅は小さくなっています。紋別の三大イベントの一つ「もんべつ港まつり」をはじめ、各種イベントが軒並み中止となったことによってポスターやチラシの印刷が減少した他、輸出入の落ち込みによって梱包資材製造業関連でも売り上げが減少しています。新型コロナウイルスの影響による消費動向の変化や需要の停滞に加え、進化する製品やサービスへの対応に苦勞しているとの声も寄せられています。次期の見通しは、更に悪化の予測となっています。経営上の問題点は「従業員の確保難」、「民間需要の停滞」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・コロナ禍のため、製品の売上が減少。（資材製造）
- ・私共の業界もコロナ禍の影響で官民の消費がかなり落ち込んでおり、早く終息して欲しいですね！（家具等製造）
- ・自動車業界は現状の認証工場から安全装置を整備する為、特定整備工場に移行、OSS ワンストップの取組、エアコン新フロンガス対応最近では自動車のEV普及及びサービス技術の進化に伴い、教育や設備投資が必要になってきた他、Windows7 から 10 にPC 数台を入替も必要です。自動車販売はコロナの影響で今しばらく販売不振は続きそうです。サービス技術料の改定は難しく、経費削減は限界に来ている状況で、生き残りをかけ事業改革が必要になります。（自動車販売・修理）
- ・前期、新型コロナウイルス感染症で食料の変化があり、乳製品、特に牛乳の余りの心配がありましたが、今期通常にもどり、本州方面の暑さもあり、生産減。北海道の生産は増加するが不足気味になり、経済効果良の方向にある。（機械販売）

経営上の問題点（機械・工業部会）



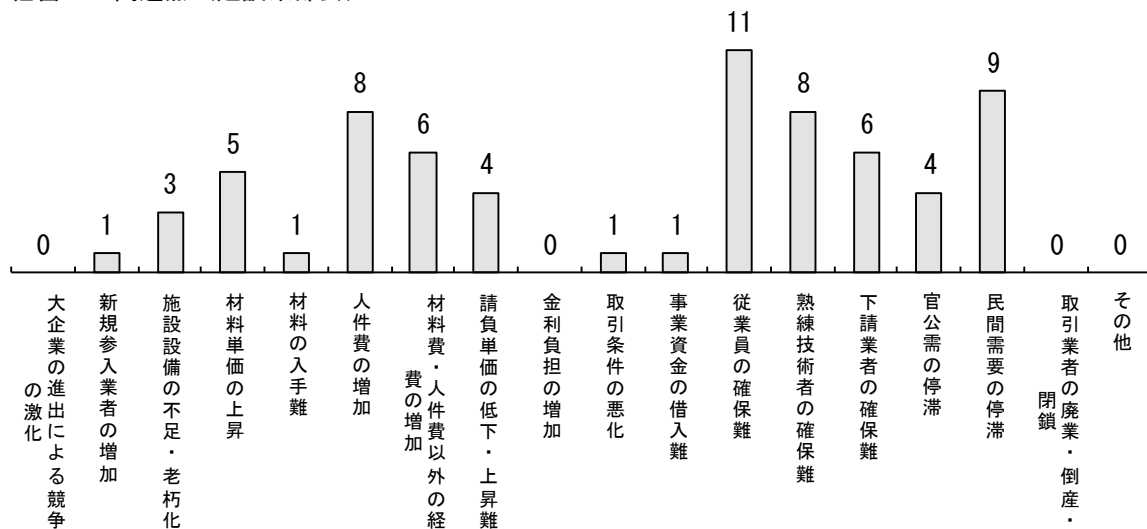
【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲47.6（前年DI値▲18.8、来期見通し▲19.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、前年DI値から28.8ポイントの悪化となりました。前回調査時▲29.4と比較しても業況は悪化しています。新型コロナウイルスの流行に伴い、住宅設備機器や建築資材の輸入部品の不足を訴える声も寄せられていましたが、徐々に欠品も解消されつつあります。しかしながら、工事が民間の住宅工事などで中止や延期がされた事に加え、大手ハウスメーカーの参入に伴い下請け業務に地元業者が参加できないといった状況や、高齢化に伴う熟練技術者を始めとした従業員の確保が難しく、業務が停滞することによる資金繰り悪化を懸念し、休業を検討している企業も出てきています。来期は緊急事態宣言も解除され、滞っていた工事の再開を期待し、大幅に回復する見通しとなっています。経営上の問題点は「従業員の確保難」「民間需要の停滞」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・住宅（新築）などは、北見・旭川などの建築業者とか、大手ハウスメーカーの紋別市内が草刈場となっている。建築業者と施主（個人など）色々言い分はあるが、地元建築業者の奮起をお願いしたい。官公需の物件に対しては、地元消費に配慮して欲しい。地元にお金を落とす！（建築資材販売）
- ・今はコロナの影響ないです。（板金）
- ・今のところ、コロナによる影響は無い。従業員の高齢化が進み、若年者の雇用確保が必須だが、確保が困難な状況にある。（土木工事）
- ・コロナの関係があるのか分かりませんが、今年は動きが遅かったです。（電気工事）

経営上の問題点（建設業部会）

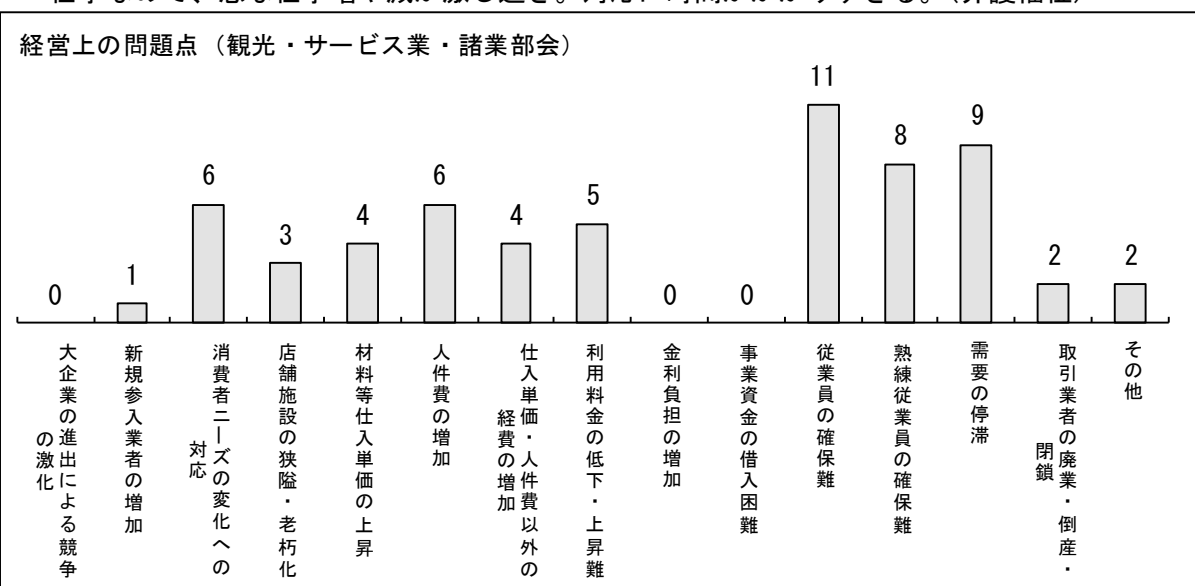


【観光サービス・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲66.6（前年DI値5.9、
来期見通し▲42.8）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前年DI値5.9のプラスの値から72.5ポイントもの危機的な悪化となりました。政府の発令した緊急事態宣言、GWの外出規制も呼び掛けられたことから多くの人が感染リスクを避けるため自宅での自粛生活を送った他、行楽地への観光を控え、春のイベントも軒並み中止になりました。4月下旬から約一か月間、北海道の休業要請及び感染防止対策への協力として酒類の提供時間の短縮等、飲食店や宿泊業、旅客運送業を中心に甚大な影響が及びました。また、感染を恐れる高齢者を中心に理美容室の利用も控え、観光サービス業は最も大きな影響を受けましたが、紋別市ではこれらの業種に対し、いち早く独自の支援策を打ち出し、「コロナ倒産」を阻止すべく対応しました。保険業もコロナにより営業活動を控える等、人との接触が不可欠な業種は大きな痛手となりました。来期見通しは、徐々に人の動きが回復している事から、悪化もやや解消される予測ですが、依然として深刻な状況となっています。経営上の問題点としては、「従業員の確保難」「需要の停滞」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・ コロナの影響による今後の営業対応が複雑かつ負担増。なにかあった時の営業対応が不安。（飲食業）
- ・ 事業省大型トラック運転手の高齢化が進んでおり、若い世代の運転者の確保が課題。（運送業）
- ・ 全業界がコロナ禍にあり、行き先が不透明で厳しいのは変わらない。（飲食業）
- ・ 人の移動の停滞。人口減少による売上減。（一般旅客運送業）
- ・ コロナ自粛（クリーニング）
- ・ 業界従事者の高齢化（保険）
- ・ 提出書類、申請書類等多すぎて実務が困難。制度が変わりすぎる事で対応も大変。人対人の仕事なので、急な仕事増や減が激し過ぎ。対応に時間がかかりすぎる。（介護福祉）



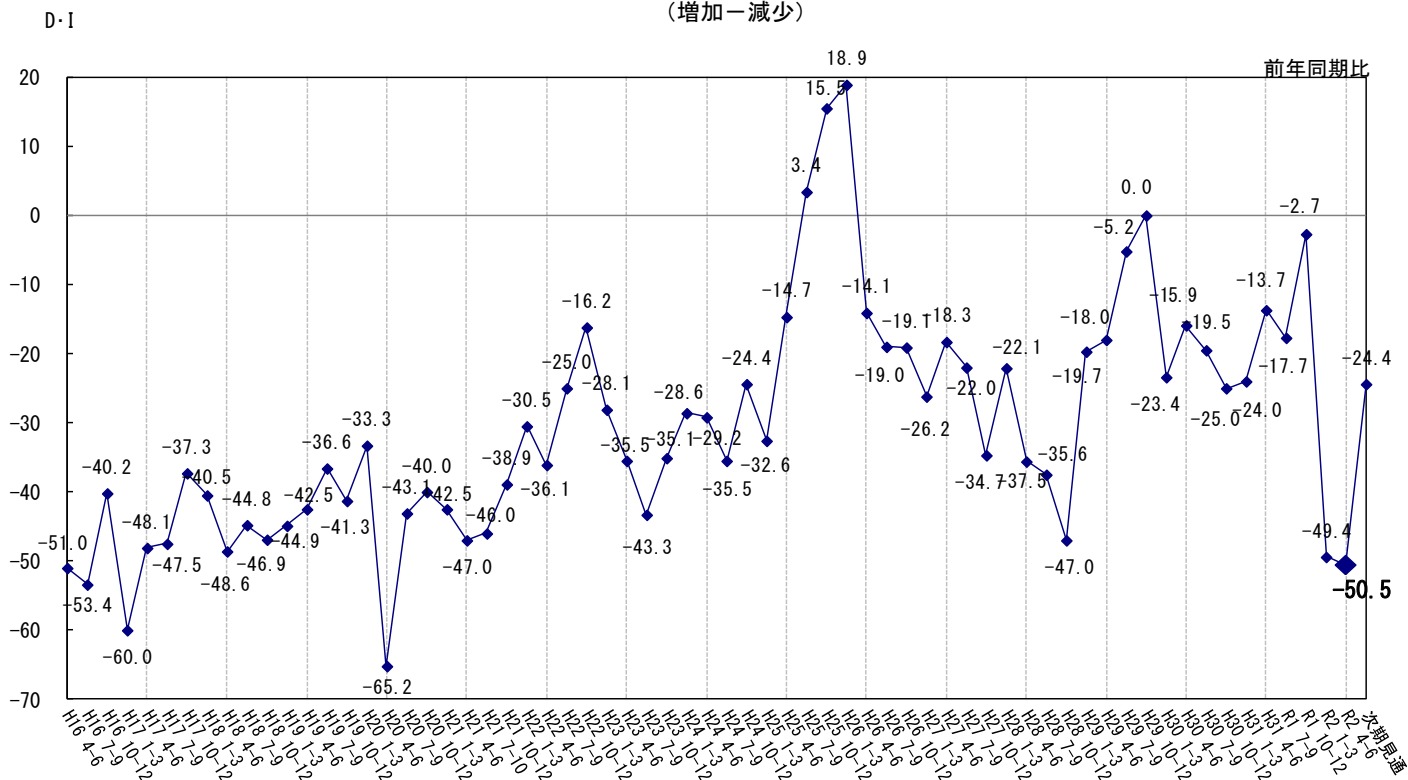
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

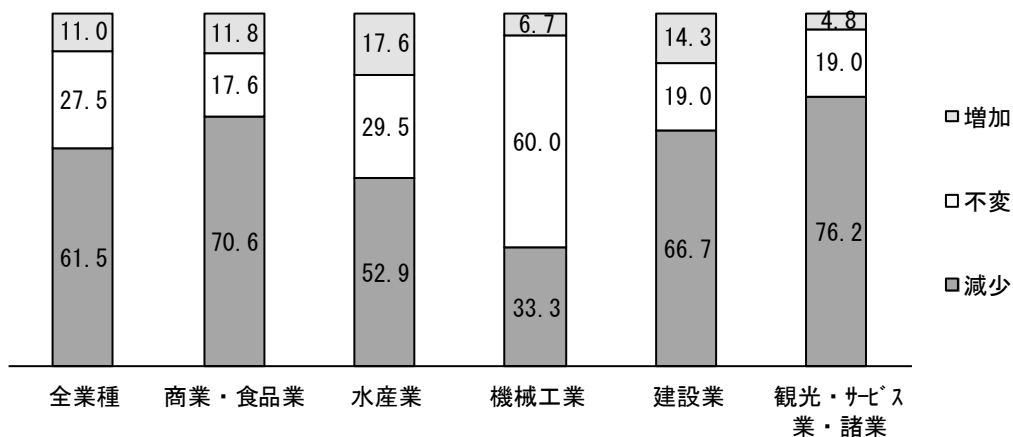
【前年同期比】（令和元（2019）年4月～6月期の水準と比較した今期の売上高）

売上高・生産高推移（全業種平均D・I）

（増加－減少）



今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均でDI値▲50.5〔前回調査時（令和2（2020）年1～3月期▲49.4）より1.1ポイント僅かに回復〕

〔部会別DI値〕

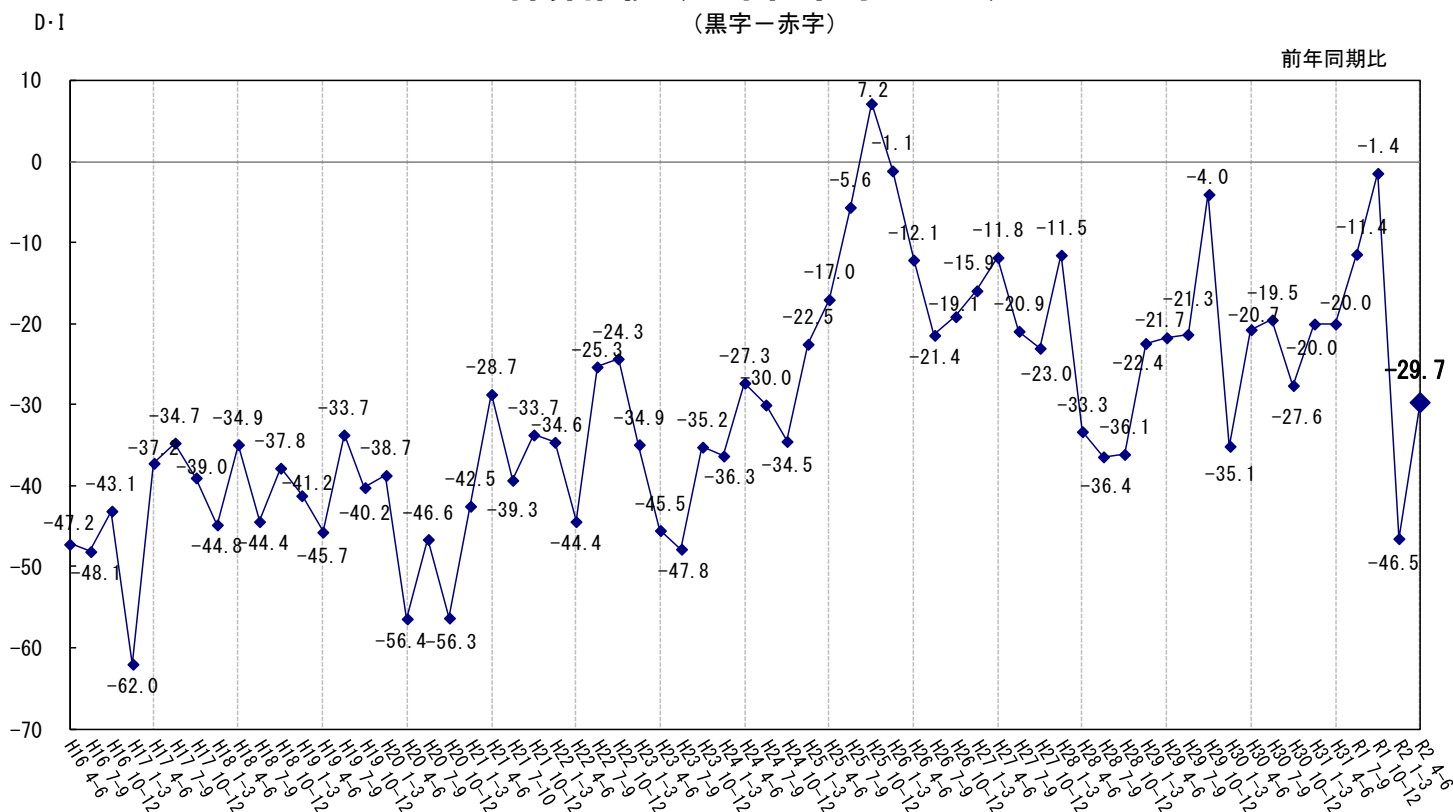
商業・食品業〔前年▲26.7→▲58.8〕、水産業〔前年9.5→▲35.3〕
 機械工業〔前年▲36.4→▲26.6〕、建設業〔前年▲25.0→▲52.4〕
 観光・サービス業〔前年▲5.9→▲71.4〕

(2) 今期の採算

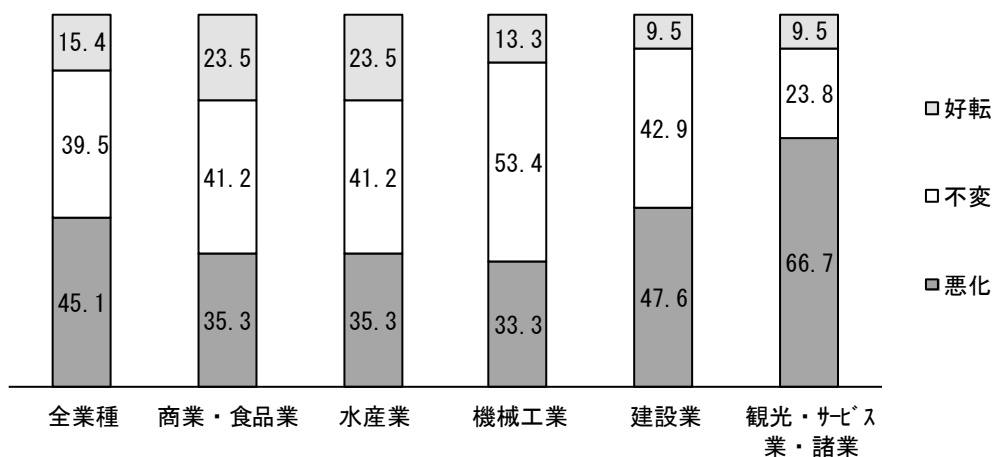
【前年同期比】（令和元（2019）年4月～6月期の水準と比較した今期の採算水準）

採算推移（全業種平均D・I）

（黒字＝赤字）



今期の採算（前年同期比）



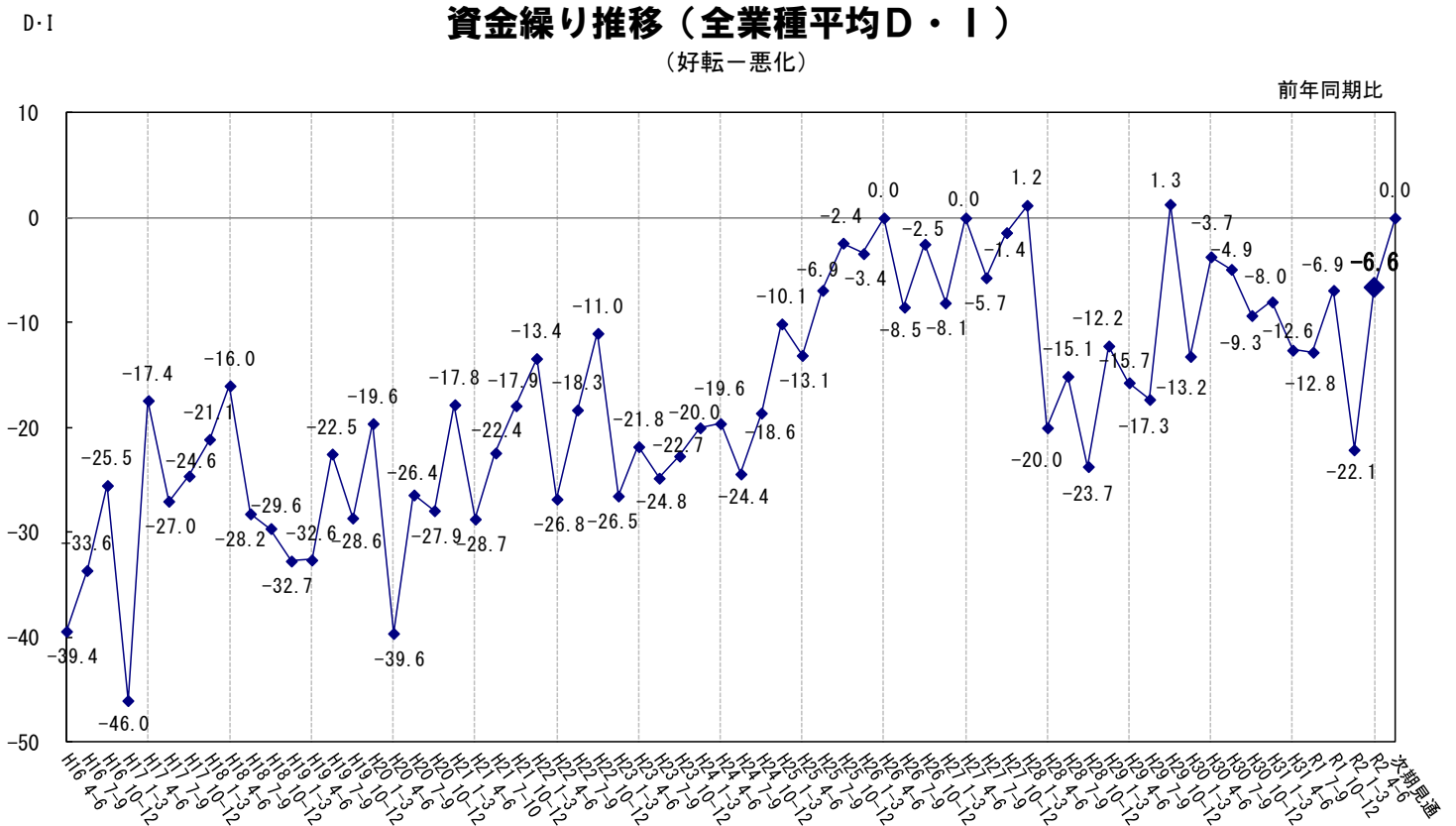
全業種平均でDI値▲29.7〔前回調査時（令和2（2020）年1～3月期▲46.5）より16.8ポイント回復〕

〔部会別DI値〕

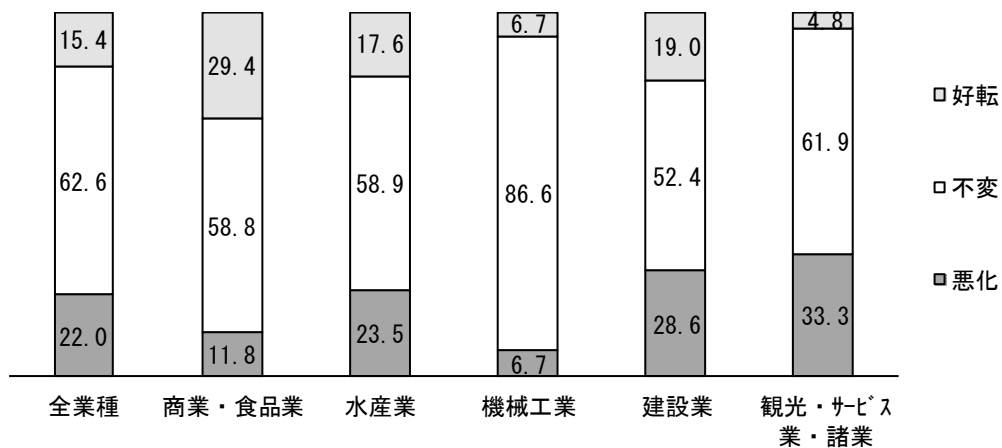
商業・食品業〔前年▲33.3→▲11.8〕、水産業〔前年9.5→▲11.8〕
 機械工業〔前年▲36.4→▲20.0〕、建設業〔前年▲37.5→▲38.1〕
 観光・サービス業〔前年▲17.6→▲57.2〕

(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（令和元（2019）年4月～6月期の水準と比較した今期の資金繰り）



今期の資金繰り（前年同期比）

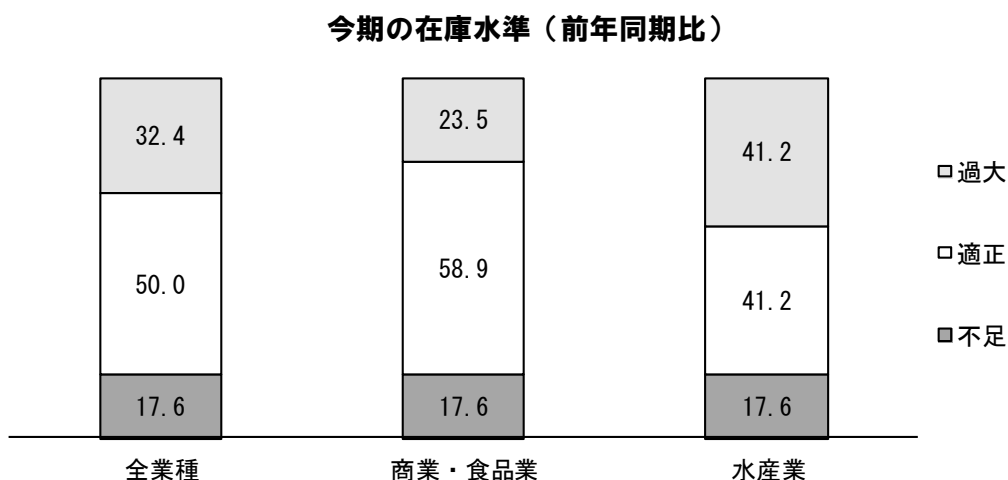


全業種平均でDI値▲6.6〔前回調査時（令和2（2020）年1～3月期▲22.1）より15.5ポイント好転〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年0.0→17.6〕、水産業〔前年▲23.8→▲5.9〕
 機械工業〔前年▲18.2→0.0〕、建設業〔前年▲6.7→▲9.6〕
 観光・サービス業〔前年▲11.8→▲28.5〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（令和元（2019）年4月～6月期の水準と比較した今期の在庫水準）

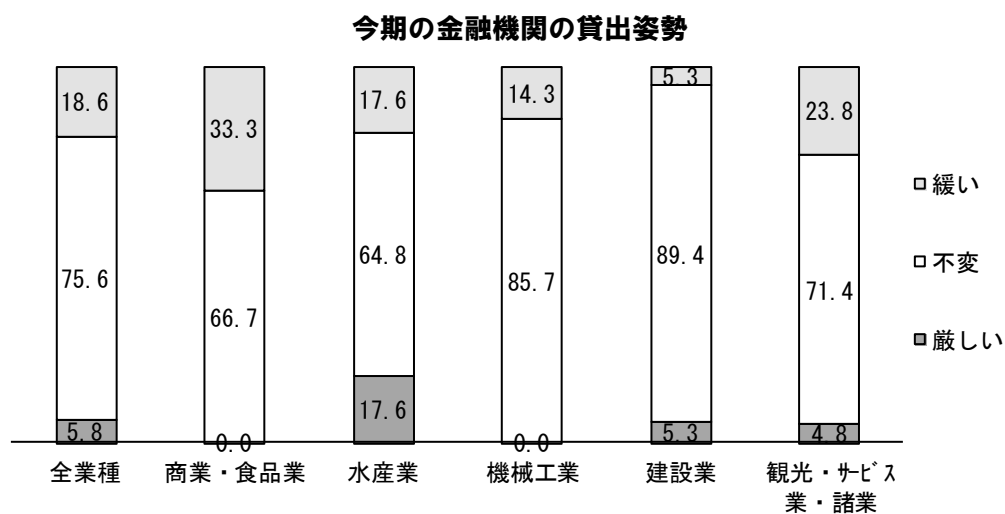


全業種平均でDI値14.8〔前回調査時（令和2（2020）年1～3月期20.0）より5.2ポイント減少〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲6.7→5.9〕、水産業〔前年▲4.8→23.6〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

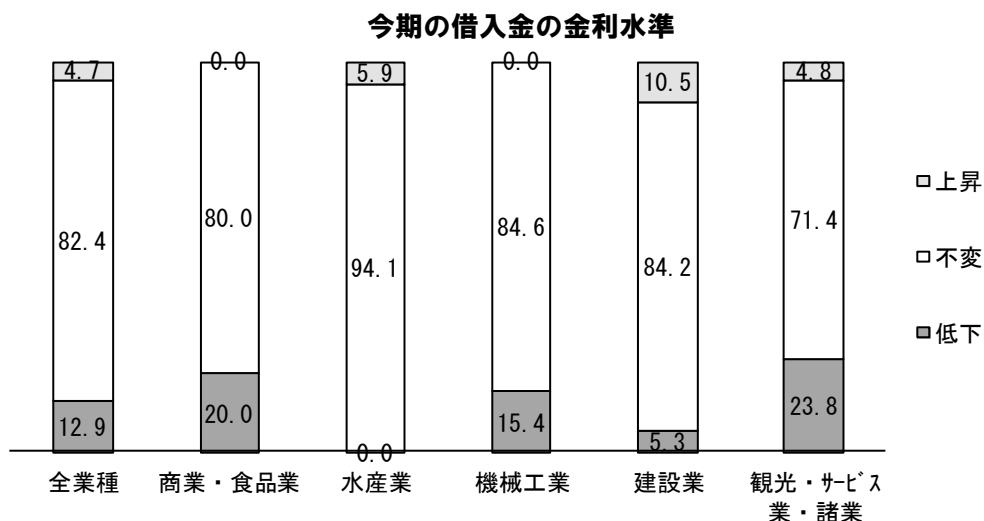
【前年同期比】（令和元（2019）年4月～6月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）



全業種平均12.8ポイント。商業食品業33.3、水産業0.0、機械工業14.3、建設業0.0、観光サービス業19.0。

(6) 今期の借入金の金利水準

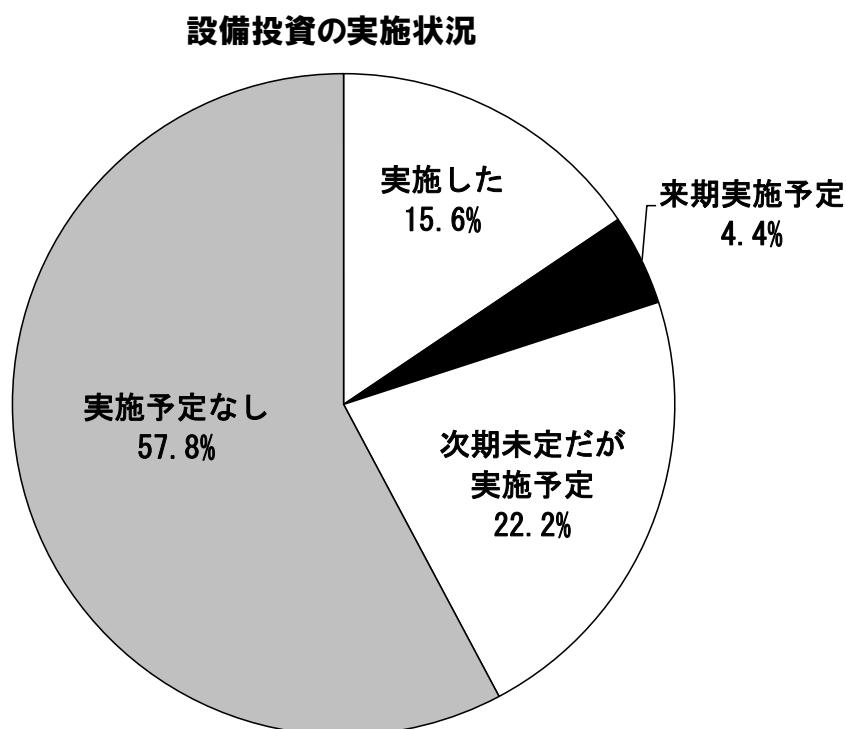
【前年同期比】（令和元（2019）年4月～6月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で▲8.2ポイント。商業食品業▲20.0、水産業5.9、機械工業▲15.4、建設業5.2、観光サービス業▲19.0。

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

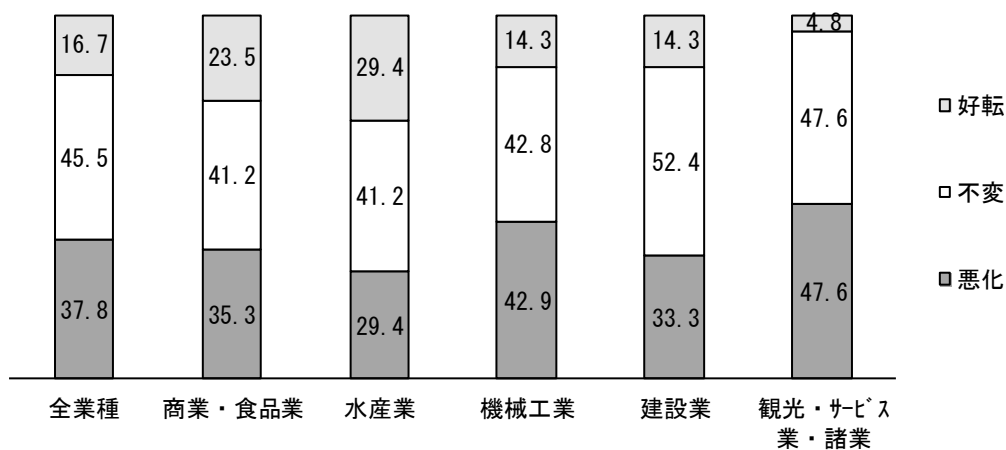


3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

【今期比】（令和2（2020）年4月～6月期の水準と比較した来期の業況見通し）

次期の業況見通し（今期比）

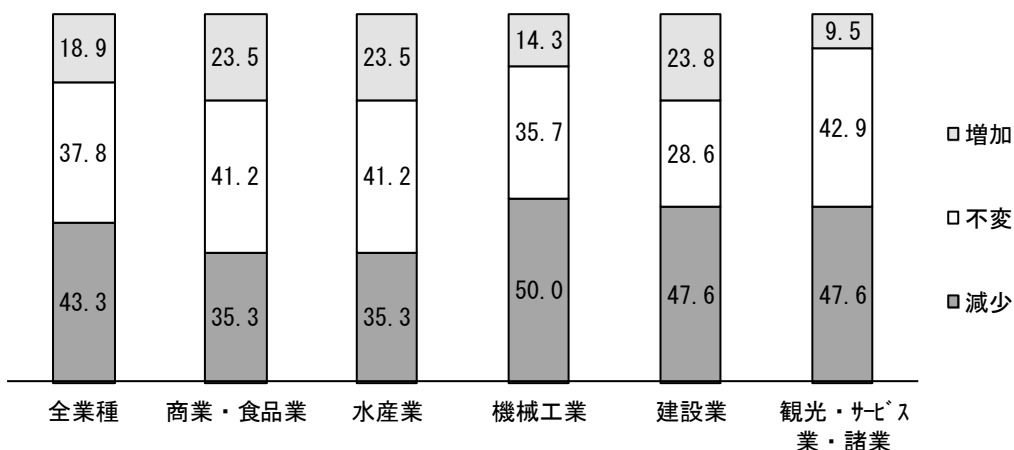


全業種平均DI値▲21.1 [今期の業況（前年同期比▲39.5）より18.4ポイント回復の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（令和2（2020）年4月～6月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

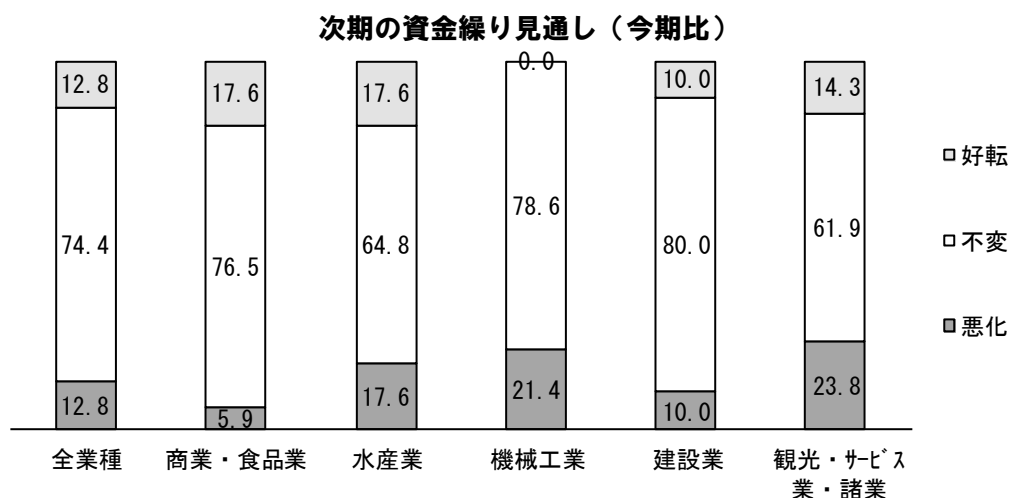
次期の売上高・生産高見通し（今期比）



全業種平均DI値▲24.4 [今期の売上高・生産高（前年同期比▲50.5）より26.1ポイント回復の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（令和2（2020）年4月～6月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）



全業種平均DI値 **0.0** [今期の資金繰り（前年同期比▲6.6）より6.6ポイント回復の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	▲39.5	▲47.0	▲5.9	▲20.0	▲47.6	▲66.6
	来期見通し	▲21.1	▲11.8	0.0	▲28.6	▲19.0	▲42.8
売上高・ 生産高 D・I	今期実績	▲50.5	▲58.8	▲35.3	▲26.6	▲52.4	▲71.4
	来期見通し	▲24.4	▲11.8	▲11.8	▲35.7	▲23.8	▲38.1
在庫 D・I	今期実績	14.8	5.9	23.6	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲29.7	▲11.8	▲11.8	▲20.0	▲38.1	▲57.2
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲6.6	17.6	▲5.9	0.0	▲9.6	▲28.5
	来期見通し	0.0	11.7	0.0	▲21.4	0.0	▲9.5
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	12.8	33.3	0.0	14.3	0.0	19.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	▲8.2	▲20.0	5.9	▲15.4	5.2	▲19.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。